

防災特集

備えあれば憂いなし

今年も6月を迎え、集中豪雨や台風による災害が心配される時期になりました。

集中豪雨や台風などによる風水害は、年々その被害や規模が拡大しています。ただ、風水害は地震と比べると、ある程度は発生や経過が事前に予測しやすい災害です。防災気象情報などに注意して減災に努めましょう。

①日頃からできる“備え”

「自分の命は自分で守る」という心構えをもって、災害が発生した時ことを想定して平時より備えておきましょう。

「ハザードマップ」を活用しましょう

ハザードマップとは？

ハザードマップは災害が発生した際に想定される様々な被害の範囲や程度、避難所などを示した地図です。

長与町では、ハザードマップをインターネット上に公開しています。また、ホームページ上で現在地を表示させながら危険区域を確認できる「長与町Web版ハザードマップ」も公開しています。

冊子版ハザードマップは役場でも配布しておりますので、

お手元にない方はインターネットや役場で入手してください。

長与町Web版ハザードマップは
こちらから確認できます。



自宅周辺の危
険個所を事前
に確認してお
きましょう!!



ハザードマップをもとに事前対策をしましょう

- ・指定避難場所や避難所の確認
- ・子どもや高齢者など要配慮者への対応・避難方法の検討
- ・避難のタイミングや避難ルートの確認
- ・自宅の補修や土のうの備蓄
- ・避難ルートにある危険箇所の確認
- ・在宅避難に備えた水や食料の備蓄
- など

避難先は避難所だけではありません

避難は「難」を「避ける」ことです。安全な場所にいる人まで避難をする必要はありません。

避難する場合は指定された避難場所や安全な知人・友人宅に避難する「立ち退き避難」が基本ですが、今いる建物内で安全確保をする「在宅避難」も有効的です。



「立ち退き避難」をするなら…

●指定された避難場所への立ち退き避難

小中学校や公共施設など、指定された避難場所へ避難します。

※ペットと避難を検討する場合は避難前に必ず役場へご連絡ください。

●安全な親戚・知人宅への立ち退き避難

普段から親戚や知人と連絡を取り合い、災害時に避難することを相談しておきましょう。

●安全なホテルや旅館への立ち退き避難

避難が目的でも通常の宿泊料などが必要です。事前に予約や確認をしましょう。

「在宅避難」のすすめ

「在宅避難」は災害時、自宅に倒壊や焼損、浸水、流出などの危険性がない場合にそのまま自宅で生活を送る方法です。避難所は自宅で避難生活を送れない場合に行く場所で、自宅が安全であれば無理に避難所に行く必要はありません。日ごろから飲料水や食料、生活必需品などを備蓄し、避難所に行かなくても済むような対策を心がけましょう。

(注) 土砂災害の危険がある区域は「立ち退き避難」が原則となります。



非常持出品や備蓄食料を用意しましょう

非常持出品

非常持出品は、災害から避難するときに最初に持ち出すものです。しかし、非常持出品は、避難の時間に余裕があるときに持ち出すもので、緊急性が高いときは避難を優先させてください。

最近はあらかじめ中身が入っているものが人気で、よくお店でも見かけるようになりましたね。家庭でも備えてみては？



玄関横に置いておくと
スムーズに避難
できそうです！

中身はこんな感じ
大人2人分(8kg!)



備蓄品

備蓄品は復旧するまでの数日間を支えるものです。工具や燃料（ガスボンベなど）、簡易トイレなど用途に合わせて事前に用意しておきましょう。

備蓄食料は3日～1週間分を目安に用意しておくとよいでしょう。備蓄食料は、「ローリングストック」の要領で活用しましょう。



※ローリングストックとは…

食品を買い置きしておき、賞味期限を考えて古いものから消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定量の食品が備蓄されている状態を保つ方法

インターネットを利用した情報取得方法

大雨警報や暴風警報が発表されているとき、インターネットを利用して、河川の水位や雨雲レーダー、台風の進路などの情報を得ることができます。

HP名	URL	どんなサイト？
気象庁HP	https://www.jma.go.jp/jma/index.html	気象情報と言えば気象庁ホームページ。雨雲レーダーや警報級が発表される可能性など、ありとあらゆる情報が掲載されています。「キクル」では、危険な地域を視覚的に確認でき、土砂災害や浸水害、洪水害の危険度の高まりを5段階の色分けで確認できます。
川の防災情報	https://www.river.go.jp/index	国土交通省が提供している河川情報サイト。地点登録をておくと、いつでも長与川の水位や長与ダムの貯水位がわかります。河川のライブカメラで実際の川の様子を確認することもできます。
長崎県防災ポータル	https://www.pref.nagasaki.jp/sb/	長崎県が提供している総合防災サイト。県内で発表されている緊急情報や、長崎県に関係のある各地の被害情報をリアルタイムで確認できます。その他、防災に関する様々な情報を掲載しています。

※URLを入力しなくても、お使いのブラウザでホームページ名を検索することでもサイトにアクセスできます。

防災情報の確認方法を知っておきましょう

① フリー ダイヤル	<p>TEL: 0800-200-3312 (無料)</p> <p>上記番号にお電話いただきますと、最新の町内放送の内容が確認できます。</p> <p>フリーダイヤルとなりますので、電話料金は発生いたしません。</p> 
② 登録制 メール	<p>町内放送(防災行政無線)の内容がメールで配信されます。</p> <p>次のURLもしくは、右にある二次元コードにアクセスし、ご登録をお願いします。</p> <p>http://mobile.nagayo.jp/mail/mobile/</p>  <p>①迷惑メール防止機能をご利用の場合は、「mobile@mobile.nagayo.jp」からのメールを受信できるように設定しておいてください。 ②「サービスを始めてみる」を押し、空メールを送信。 ③メールが届いたら、記載されているURLにアクセス。 ④配信希望情報を選択後、「広域地域から選ぶ」を選択。 ⑤登録完了!</p> 
③ SNS	 <p>LINE 公式アカウント ナガヨ ミックン</p> <p>X (旧:Twitter) 公式アカウント</p> <p>Yahoo! 防災速報</p> <p>昨年、長与町公式LINEがリニューアルしました! 公式LINEから防災気象情報など確認しやすくなっていますので、ぜひご活用ください!</p> <p>使い方 「リッチメニュー」→「防災」をタップ</p> <p>●災害情報確認 →防災気象情報や現在の気象情報を表示 ●各種ハザードマップ →長与町防災ハザードマップを表示 ●避難所情報 →解説中の避難所と、混雑具合を表示 ●通報システム →災害時などに発生した異常を町に報告できるもの 災害時に何か異常を見つめたら、通報をお願いします</p> 
④ ホームページ	 <p>長与町公式</p> <p>長与町 公式</p> <p>Android用 iPhone用</p> <p>「長与町 防災」で検索すると、長与町防災サイトにアクセスできます。 避難所や防災に関することなど、様々な情報を掲載しています。 ハザードマップなども、このサイトから確認することができます。</p>
⑤ テレビ	<p>大雨や台風が近づいてきたら、テレビを付けてみましょう。 リモコンの「dボタン」を押すと、最新の気象情報や避難情報、他市町の状況など、リアルタイムで情報を得ることができます。</p> 

②地域における“備え”

大きな災害が起こった際は、そこにいる地域住民みんなで助け合うことが必要不可欠です。
日ごろから地域の人たちで構成する「自主防災組織」の活動に積極的に参加して、いざという時に備えましょう。

災害時の備え:「自助」「共助」「公助」

自助 災害時に自分自身(と家族)の身の安全を守る事

(例)早期に避難する、非常持出品を準備するなど

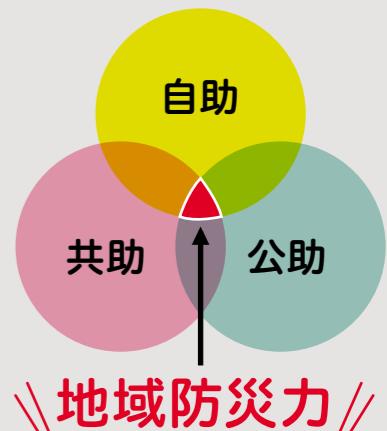
共助 地域やコミュニティといった周囲の人同士で助け合うこと

(例)自主防災組織による活動など

公助 公的機関による救助・援助活動

(例)消防や自衛隊による救助・援助など

大規模な災害が発生した場合は公助を受けるようになるまで3日から1週間かかると言われており、被災者全員が満足いく公助を受けるわけではありません。そのため、災害時には「自助」と「共助」が大切なのです。



自主防災組織をご存じですか?

自主防災組織とは

自主防災組織とは、地域住民が協力して防災活動を行う組織のことです。

災害時に地域住民が連携して活動し、地域の被害を最小限に抑えることが役割です。

長与町では、52ある自治会のうち、48の自治会で自主防災組織が組織され、活動しています。

平常時の活動

災害発生時の対応や被害の大きさは、日頃からいかに地域住民が協力し準備を行っていたかで変わります。自主防災組織では、平常時にもみんなで連携しながら防災活動に取り組んでいます。

(活動例)

●防災訓練の実施

防災意識の醸成・防災知識の普及を目的として、防災訓練を実施しています。

防災訓練はいざという時に的確な対応をとるために欠かせないものとなります。



↑防災訓練の様子
(初期消火訓練・炊き出し訓練)

防災発生時に活躍する防災資機材の整備や点検を行っています。

災害時の活動

災害時には、多くの人が人や家屋の下敷きになる人がいたり、様々な事態が起こる危険性があります。

自主防災組織は自治体や公共機関と連絡を取り合いながら、共助の中心として活動します。

(活動例)

●避難誘導

地域の方を避難場所などの安全な場所へ誘導します。

●情報収集・伝達

公的機関と連絡を取り合い、災害に関する正しい情報を地域の方へ伝達します。

●避難所の運営

避難所施設の状況確認や避難者の受け入れなど避難所の運営を行います。

